

地域子育て支援の「受領－提供」関係における バリアについての質的研究 — 祖父母世代と親世代のグループディスカッションの考察 —

田淵 恵* 関西学院大学大学院文学研究科
中原 純 大阪大学大学院人間科学研究科
権藤 恭之 大阪大学大学院人間科学研究科

祖父母世代による地域の子育て支援は、地域在住の祖父母世代が、同地域の子育て中の親世代に対する子育て支援の提供者となるという試みである。本研究では、この支援を促進することを目指し、親世代・祖父母世代の、活動参加への心理的バリアを具体的に明らかにすることを目的とした。対象者15名（親世代6名；平均年齢 32.5 ± 2.43 歳、祖父母世代9名；平均年齢 64.11 ± 5.89 歳）に、グループディスカッションを行った。その結果、親世代の支援受領バリアは「祖父母世代の支援提供態度」、「世代間の相違」、「親世代自身の不安」の3つの上位カテゴリーに、祖父母世代の支援提供バリアは「世代間の相違」、「親世代の支援受領態度」、「祖父母世代自身の問題」の3つの上位カテゴリーにまとめられた。結果より、心理的バリアとして抽出された世代間の相違や互いの態度について、誤解のある部分は正しい情報提供を行い、両世代の心理的バリアを解く重要性が示唆されたと考えられる。

キーワード ⇒ 祖父母世代, 子育て支援, 心理的バリア